

2018 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養管理プロセス研修会 ―栄養管理の先を考えてみる―

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

病院栄養士として、患者様への栄養ケアには広い視野をもつ必要がある。そこで、患者さんの栄養管理計画を作り、どのようなアウトカムを期待して PDCA を回していくのかを深く検討するため、合宿形式で症例検討を行った。この経験を通して実務者としてのスキルアップを図ることを目的とした。

また様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間でのネットワーク構築に繋がることにも期待する

【方法】

対象：病院栄養士として実務を行っている者 18名

期間：2019年2月2日～3日 会場：サンプラザ・シーズンズ 葵の間

内容：

1日目 13：15～16：15 「セッションⅠ 糖尿病・妊娠糖尿病」

16：30～19：00 「セッションⅡ 高齢者の栄養管理」

19：00～20：00 夕食・交流会

2日目 8：30～11：30 「セッションⅢ 経口・経腸・静脈栄養のプランニング」

11：30～12：30 反省会・アンケート

【結果・考察】

最後に行ったアンケートより、研修前後を比較すると理解度の深まった参加者がほとんどであった。「きちんと GDM、DM のガイドラインを確認することから始めたい」「高齢の方にとって栄養とはどういったものか再認識できた」「ポイントがよくわかった。明日からの仕事に生かせる内容が多かった」「これから勉強していかないといけない方向性がみえ、道がひらけた感じがした」など、目標を見つけられたいという意見が多かった。また、同じ経験年数同士の組み合わせであっても、他のグループの意見を聞く機会を取り入れる方法をとったことで、多くの意見を聞くことができ満足度が上がったと考えられる。この研修会の成果として「話をたくさんきくより、ふだんに取り入れさえすればすぐ身につくのかなと思う」「理解、知識として自分に残すためには帰ってからが重要」という意見もあり、今後の活躍が期待できた。初めての合宿形式で研修会を行ったが、満足度が高く今後も同様の研修会を望む声が多かった。